

「右折レーン」の設置が着実に実現

毎年の予算要望で協力を推進！

2008.1.21

県議会公明党が毎年の予算要望で強かに推進してきた「右折レーン」の設置が着実に実現し、交通事故防止、渋滞解消に大きな成果を発揮しています。

「右折レーン」の設置を県議会本会議の一般質問で初めて取り上げたのも公明党の県議。

今から10年前の平成10年12月定例会のことです。当初は、用地買収を行わなくても実施できる（だから用地買収費がいらぬため、低予算で実施できました）「緊急右折レーン整備事業」としてスタートし、現在は用地買収も行いながら事業を継続しています。

最近のデータが埼玉新聞20年1月21日付けに掲載されましたので、ご紹介します。

右折帯で事故2割減

交差点100カ所に整備

2008.1.21 埼玉新聞



県は交差点100カ所に右折帯などを整備した結果、交通事故が約2割減少する効果があったと発表した。

県管理の県道や国道のうち幅5・5メートル以上の道路が交わる交差点は計7574カ所あるが、右折帯の設置は1263カ所にどまっている。

上田清司知事は「（事故や渋滞など）悪い意味でレベルの高い場所を、順位を決めながら引き続き整備する」と話している。

県道路環境課によると、交差点で発生する事故は、右折待ちの車両に後続が追突したり、右折を焦った車両が対向車と衝突したりするケースがみられるという。

こうした現状を解消するため、県は「交差点スピードアップ100プラン」を計画。幅約三メートルを白線で確保した右折帯や、センターラインに寄って右折待ちができるスペース（避譲帯）の設置を進めてきた。

整備の対象は、人身事故が毎年平均1件以上あるか、右折帯がなく渋滞が100メートル以上発生する県道・国道の交差点。2005年度の27カ所を皮切りに、3年間で156億円をかけて整備した。100カ所のうち68カ所が幅約3メートルの右折帯、残りは避譲帯だった。

05年度に整備した交差点では、01年1月～04年12月に72件だった年平均交通事故件数が、06年1月1日～04年12月には同57件に減少。また05年度に完成した27カ所では、最大時の渋滞の列が整備前の平均248メートルから58メートルに、06年度の25カ所でも254メートルから102メートルに、それぞれ短くなった。